

平成20年8月12日
京都大阪森林管理事務所

国有林から大文字保存会への薪供給について
- 大文字送り火の1割が国有林材 -

本年、当所では、地域文化への貢献の観点から、「大文字山」に隣接する銀閣寺山国有林のアカマツ材を「五山の送り火」の薪材として、「NPO法人大文字保存会」に提供しました。

「大文字山」に隣接する「銀閣寺山国有林」は、京都東山の国有林の中でも、比較的、多くのアカマツが残っています。銀閣寺山国有林では、依然として、松枯れ被害が拡大しており、当所では、松枯れ対策として、毎年、マツノザイセンチュウによる枯死木の伐倒処理を行っております。

NPO法人大文字保存会でも、松枯れ被害の拡大により、送り火の薪とするアカマツ材の確保に苦慮していることから、本年、当所では、銀閣寺山国有林のアカマツ枯損木55本（長さ1メートル程度）をNPO法人大文字保存会に供給しました。このうち、8月16日の送り火では、薪にして30束程度を使用して頂く予定です。

当日、大文字山全体では350束程度の薪が使用されることから、当日燃える薪の1割程度が銀閣寺山国有林由来のものとなります。

林野庁近畿中国森林管理局
京都大阪森林管理事務所
602-8054
京都市上京区西洞院通り下長者町下ル
丁子風呂町102
TEL：075-414-9822
FAX：075-432-2375

(背景説明)

1．松枯れ

1960年代後半以降、「マツノマダラカミキリ」が「マツノザイセンチュウ」と呼ばれる線虫を媒介することによって、アカマツやクロマツが枯死する現象が全国に広がりました。京都市内の国有林においても、これまで、嵐山をはじめとして、松枯れによる被害が拡大してきました。このような中、銀閣寺山国有林には、比較的多くのアカマツが残存していることから、当所では、アカマツの復活に向けた重点的な取組を進めています。

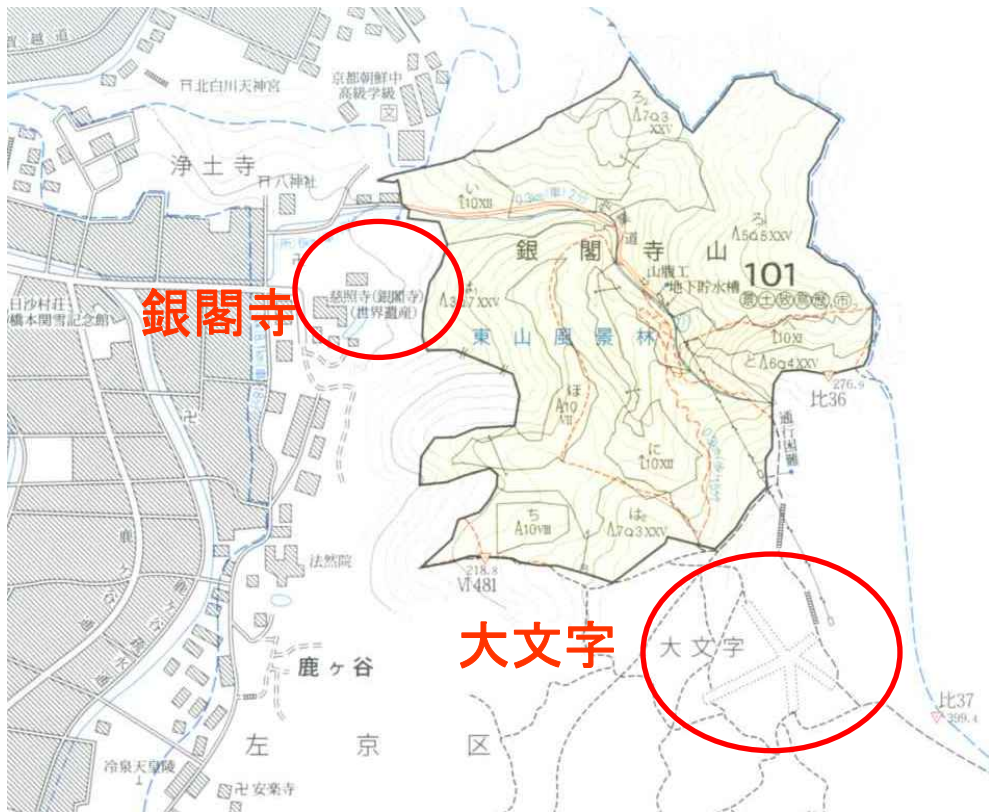
2．大文字送り火の薪

NPO法人大文字保存会では、毎年、同会の所有する共有林から、樹齢80年生程度のアカマツ材12本程度を伐採して、薪材として使用してきました。(燃焼時間の関係から、樹齢80年生程度のものが好んで用いられます。) しかしながら、近年、松枯れ被害の拡大により、共有林のみから薪材を供給することが困難な状況にあります。

3．銀閣寺山国有林

銀閣寺山国有林は「五山の送り火」で有名な大文字山の左側(北側)、世界文化遺産に指定されている銀閣寺(慈照寺)の背後に位置しており、面積は約24haです。銀閣寺山国有林は、江戸時代までは、銀閣寺の寺領でしたが、明治初めの「社寺上知令」によって官有地に編入され、現在では、林野庁の所管する国有林となっています。

(以上)



銀閣寺山国宧林位置図



西側から見た大文字山と銀閣寺山国宧林(左側)



銀閣寺山のアカマツ林



NPO法人大文字保存会に供給したアカマツ伐倒木